

やまかげの小唄

信濃川に雪が降る
雪の白は何故暗い

真白い着物に雪が沁む
肩は涙で濡れてゆく

誰も吹かない笛の音は
だからきっと聞こえるのでしょう

ここにはきらめく色も無い
ここには響く音も無い
ここには流れる饒舌も無い
ここには人の命も無い

ここにあるのは途切れ途切れの
ここにあるのは溢れるような
ここにあるのは・・・ことば
そして、口ごもる唇

優しくしきりと降る雪の中
ちーんと鳴ったのは

うちひしがれた娘の目の中に^{うち}
さらりと溶ける雪の哀しみ

(1982.2.7)